

# 戦国時代③～信長の経済政策とキリスト教伝来～ 教科書P.139～142

本日の目的：信長の経済政策の特徴とキリスト教伝来について理解する。

## ○戦国大名の主な収入源

- ・1. 年貢：領地からの年貢米等
- ・2. 貿易：国内・国外との貿易
- ・3. 営業税・関所からの関税
- ・4. 金山・銀山

## ○信長の土地政策

- ・5. 検地：近江(1568)、伊勢(1568)、山城(1574)、大和(1575、1580)
- ⇒所有者に土地の等級・面積・作人・年貢量等を書いて指出させた(自己申告制)
- ⇒大和では、興福寺などの寺社に対しても指出検地を実施。

## ○信長の貿易収入：直轄都市からの税収

- ・6. 堺：国際貿易都市・国内最大の火縄銃生産地
- ⇒矢銭(軍資金)2万貫を賦課⇒直轄領とする
- ・7. 大津：畿内・北国間の交易港、湖上交通の要衝
- ・8. 草津：東海道・中山道を結ぶ陸路交通の要衝



## ○信長の税：税収を確保しつつ、経済の活性化を図る

- ・9. 楽市令：六角定頼(1549)、今川氏真(1566)が信長に先んじて楽市を導入
- ⇒税を減免し新興商工業者を育成⇒経済活性化
- ⇒加納(1567)、金森(1572)、山崎(1577)
- ※楽市令は荒廃した町の復興や新たに築いた城下町の発展のために限定的に出された
- ・11. 惣所：(1569)⇒支配地域で実施
- ⇒関銭(通行料)や関所を通る際に行われていた通行妨害を無くし、通行や物資輸送を円滑にする事を目的とした
- ・12. 楽銭令(1569)：貨幣流通量の増加による経済活性化
- ⇒「支払い時の劣悪な銭貨の受け取り拒否」を禁止(幕府や他の戦国大名も実施)
- ⇒鑄銭などの受け取りを拒否されやすかった銭と正貨とのレートに固定 New!
- ⇒金・銀を貨幣として使用することを義務付ける New!
- ⇒金・銀・銅銭のレートに固定 New!

## ○信長の鉱山収入：銀鉱山

- ・13. 山崎(1569)：撰銭令の5か月後に占領
- ⇒管理は堺の有力商人<sup>14</sup>が担当
- ⇒生野銀山周辺の国人衆は征服後も、たびたび銀の抛出を拒んだため、安定した収入源になるのに数年を要した。

## ◎キリスト教の伝来(1549年)

- 15. フランシスコ・サビエル：イグナチウス＝ロヨラと<sup>16</sup> イグナチウス(耶蘇会)設立
- ⇒<sup>17</sup> 島津貴久(島津貴久)で布教(翌年禁止)
- ⇒上京するが布教の認可は得られず
- ＜布教活動に成功した地域＞
- ・山口(周防)：<sup>18</sup> スエズ・大分(府内)：<sup>19</sup> 大友・金谷(金谷)
- ⇒1551年、日本を去る⇒その後、多くの宣教師が来訪するようになる。
- 20. 宣教師(主にイエズス会)の活躍
- ・司祭職(洗礼を授けられる)：<sup>21</sup> バレン(伴天連)

## 【戦国時代に来日した主な宣教師】

- ・ガスパル＝ヴィレラ(ポ)
- ⇒著作『耶蘇会士日本通信』：堺の自治を紹介
- ・22. バスケロイス(ポ)：信長と親交
- ⇒著作『日本史』：1549～93年の日本の記録
- ・ヴァリニャーノ(イ)：<sup>23</sup> 大友・金谷を提案
- ⇒<sup>24</sup> セミナリオ(神学校)・<sup>25</sup> コレオ(聖職者養成学校)・病院を設立
- ・オルガンティーノ(イ)：信長、秀吉と親交
- ⇒京都に南蛮寺(教会堂)、安土にセミナリオを設立
- 26. フランシスコ：キリスト教に入信した戦国大名
- ⇒布教を認めた大名領にポルトガル船が入港(南蛮貿易の実現)
- 【主なキリシタン大名】
- ⇒<sup>27</sup> 大友(大友) (豊後)：洗礼名フランシス
- ⇒<sup>28</sup> 大村純忠(肥前)：洗礼名バルトロメオ
- ⇒<sup>29</sup> 右馬助(肥前)：洗礼名ジョン＝プロタシオ
- 30. 大友(1582)：ヴァリニャーノの提案
- ⇒伊東マンショ・千々石ミゲル・中浦ジュリアン・原マルチノの4少年がローマ教皇グレゴリオ13世に謁見 ⇒1590年帰国

## ＜本日のまとめ＞

- ・信長は指出検地を広く実施し、これまで年貢を免れてきた寺社に対しても指出を強制的に提出させた。
- ・信長は將軍義昭に堺・大津・草津の支配権を認めさせ、畿内地方の物流をその手におさめた。
- ・楽市令は、様々な税の減免によって荒廃した町の復興や新たな町の発展を促進するために出された。
- ・領内の関所を撤廃することで通行や物資輸送を円滑にすることで、経済活動の活性化を図った。
- ・信長の撰銭令は当時、交換比率がバラバラだった銭貨に固定相場制を導入するとともに、金・銀・銭の交換比率についても定めた点が画期的だった。

## 戦国時代④

### ～豊臣秀吉の天下統一～

教科書P.142～145

本日の目的: 秀吉による天下統一までの過程とその後について理解する。

○織田信長の死: 本能寺の変 (1582年6月21日) …家臣の内訌の謀反  
⇒信忠 (信長の嫡男) も自害したことにより、織田家に後継者争いが発生  
⇒秀吉は毛利氏と交戦中 (中国攻め) ⇒短期間で京都に戻る (中国大返し)

羽柴 (豊臣) 秀吉 木下藤吉郎: 今川氏家臣の松下之綱の家臣 ⇒ 信長の家臣 (1554～)

【革新性】未完成であった信長の諸政策をブラッシュアップし、全国統一を実現

#### (1) 織田家の最有力家臣となるまで

- ・ 山崎 の戦い (1582年7月2日): 天王山で仇であった明智光秀を討ち取る
- ⇒ 織田信長の後継者争いで有利な立場となる
- ・ 山崎 (1582年7月16日): 後継者に三法師 (秀信: 信忠の子) を擁立
- ⇒ 三法師が織田家の家督を継ぎ、叔父の 信忠 と 信長 が後見人となる
- ⇒ 織田家領地の再配分が行われ、秀吉は28万石加増となり家臣団の中で最大となった

- ⇒ 信孝は三法師を岐阜城に隔離 ⇒ 秀吉らは信雄 (信長の次男) を家督として支持
- ・ 長久手 の戦い (1583年): 信孝 (信長の3男)、柴田勝家 と結び秀吉と戦う
- ⇒ 信孝・柴田勝家に勝利したことで、**名実ともに家臣団筆頭となる。**

#### (2) 織田家臣から天下人へ

- ・ 大坂 跡地に 大坂城 築城開始 (1583年) ← 安土城の信雄に対抗
- ⇒ 翌年、秀吉は信雄に大坂城に新年の挨拶に来よう求める ⇒ 信雄との対立が明確化

- ・ 大坂 の戦い (1584年): 信雄は 豊川家康 と結び秀吉と戦う
- ⇒ 秀吉陣営と信雄・家康陣営に分かれて各地の戦国大名が戦った全国規模の戦となった
- ⇒ 秀吉への所領の割譲を条件に講和を申し入れ、信雄はこれを受諾 ⇒ 織田家を掌握
- ⇒ 戦争の大義名分を失った家康は次男を秀吉の養子として差し出すことで講和成立

織田家の家督を継いでいた信雄、織田家最大の同盟者であった家康を抑えることに成功

- ・ 従三位権大納言に就任 (1584年): 足利義昭 (征夷大將軍) と対等の地位となる
- ⇒ 翌年、信雄が秀吉に臣従 ⇒ 秀吉は征夷大將軍よりも上位の正二位内大臣となる

#### (3) 西日本の各勢力を制圧 ※朝廷の権威を引き続き利用

- ・ 九州 平定 (1585年3～4月): 雑賀衆・根来衆・高野山などの抵抗勢力を征圧
- ・ 四国平定 (1585年6～8月): 土佐、降伏 ⇒ 土佐一國のみに減封
- ・ 九州 に就任 (1585年7月): 事実上の最高権威職、武士で初
- ⇒ 全国の戦国大名に停戦を命じ、秀吉の裁定に任せるよう強制 ⇒ 島津氏は抵抗
- ・ 九州 に就任 (従一位の官職) ・ 豊臣 姓を賜る (1586年)
- ⇒ 徳川家康がついに臣従 (秀吉は妹を家康に嫁がせ、実母を人質として差し出す)

東日本最大の戦国大名であった家康を従えたことで、九州 (島津氏) 平定に乗り出す

- ・ 九州平定 (1587年): 大友氏の要請により停戦命令に背いた 島津 を征討
- ⇒ 島津氏は降伏し、薩摩1國のみに減封される
- ⇒ 同年、博多で バレンティン が出される

- ・ 1588年 張本 に後陽成天皇を招き、諸大名に天皇と秀吉への忠誠を誓わせる

#### (4) 東日本の各勢力を制圧し、全国統一を実現

- ・ 関東平定 (1590年2～7月): 北条 父子を攻める (小田原攻め)
- ⇒ 東北地方に勢力を持っていた 伊達政宗 は秀吉に服従し、小田原攻めに参加
- ・ 奥州平定 (1590年7～8月): 小田原攻めへの不参加者の領地を没収
- ⇒ 小田原征伐に参陣した伊達政宗は所領を安堵 (保証) される

# 天下統一

<本日のまとめ>

- ・ 本能寺の変で主君であった信長の仇を討ったことで秀吉の家臣団における発言力は飛躍的に高まる
- ・ 賤ヶ岳の戦いで最有力の家老であった柴田勝家と織田信孝を討ち、織田家の最有力家臣となる
- ・ 家督を継いだ織田信雄を小牧・長久手の戦いを経て、事実上の臣下に抑え込むことに成功
- ・ 朝廷の権威を利用し、徳川家康を臣下とすることに成功するとともに、各地の大名の抑え込みに成功
- ・ 織田家の面々を巧みに封じ込み、朝廷を利用することで、世間を敵に回すことなく、天下人となる